

I K U S E I

わくせいの

2020 58



公益社団法人 競走馬育成協会

CONTENTS

■巻頭言

「ごあいさつ」

(JRA 馬事部生産育成対策室長 伊藤 幹) ①

■特 集

令和元年度 育成技術講習会 ②

演題：「育成馬のスポーツ栄養」 ～競走馬に向けての栄養を考える～

講師：JRA 日高育成牧場 主任研究役 松井 朗 氏

■行 事

①令和元年度「育成等に関する懇談会」を開催 ⑫

②令和2年度 定時総会 ⑭

■事 業

①育成技術講習会 ⑮

②育成技術表彰事業 ⑯

③軽種馬生産育成強化資金利子補給事業 ⑲

④競馬関連機材等有効活用事業 ⑳

⑤軽種馬経営高度化指導研修（人材養成） ㉒

■お知らせ

○賛助会員のご紹介 ㉔

■巻 末

○地方競馬の馬主になりたい（NAR）告知 ㉕

○育成協会人事（職員異動） ㉕



題字 元会長 小沢一郎
表紙写真 内藤律子

ごあいさつ



JRA 馬事部生産育成対策室長
伊藤 幹

本年3月からJRA馬事部生産育成対策室長を務めています、伊藤幹（いとうもと）です。平成2年に入会し、この3月で勤続30年となりました。この30年間、主にトレセンや馬事部などに勤務してきましたが、生産／育成分野は初めての経験となります。できることからコツコツと、日本の生産／育成界のお手伝いをさせていただき所存です。どうぞよろしくをお願いします。

生産も育成も初めての経験と書きましたが、15年ほど前に3年間牧場長の疑似体験(?)をしました。「競走馬総合研究所 常磐支所」での勤務です。最近「競走馬リハビリテーションセンター」というシャレた名前と呼ばれていますが、「馬の温泉」と言った方が馴染みがあるかもしれません。常磐支所は福島県いわき市に所在し、文字通り馬の温泉の他、プール、ウォーキングマシン、トレッドミルなどを備えた競走馬の総合リハビリ施設です。骨折や腱鞘炎といった主に運動器疾患を患った競走馬を預かり、病気を治し体力を回復させターフに戻すことを主な業務としています。在厩馬の多くが何らかの疾病を抱えていますから、育成牧場というよりは休養牧場に近いイメージです。

所長として赴任した常磐支所には、トレセンで「放牧診断」を受けた競走馬たちが、競走復帰に向けて治療とリハビリを行っていました。当時の常磐支所は、40ある馬房の7割ほどが埋まり、療養馬の5割は屈腱炎、4割が骨折という状況でした。毎日患肢を触り、定期的にレントゲンやエコーなどの検査を実施しながら慎重にリハビリを進めていくわけですが、順調に治っているように見えても、ちょっと運動量を増やすと熱を持ってしまったり、馬場で暴走してそれまでのリハビリが水泡に帰すなど、多くの苦い経験もさせていただきました。

馬主さん／調教師さんから競走馬を預かり療養費をいただく以上、結果にコミットしなければなら

いのは当然ですが、療養馬のリハビリ以外にも、所長には重要な仕事がありました。療養馬の確保と支所で働く人材の確保です。常磐支所では、少年団や馬術部、牧場などで馬を取り扱った経験のある者を支所内に住ませ、臨時厩務員として療養馬の世話をお願いしています。彼らの多くは、将来的には競馬学校を受験しトレセンで働くことを夢見る若者で、支所は労働力を、彼らは知識と経験を得られる関係を築いています。私が所長を務めた15年前は、JRAの発売金が年々減少し組織全体のスリム化が進められていた頃でした。常磐支所も事業継続のため、一定数の療養馬を確保し事業所の必要性をアピールすることが命題でしたが、馬を預かるためにはそれを世話する人が必要になります。人材を確保すること、確保した人材を養成することは、支所の存続を左右する非常に重要な仕事でした。

生産育成対策室に籍を置いて半年になりますが、今年は新型コロナの影響で巣ごもりの日々が続き、なかなか生産／育成の現場におじゃますることができません。自席で仕事をすることが多い中、もっとも目にする／耳にする単語は「担い手」かもしれません。今も昔も、国内の馬産業における最大の課題は人材確保のようです。欧米と異なり、もともと馬に触れる機会が少ない日本では、馬に携わろうという動機付けも少なく、馬産業に就労しようとする若者が少ないのは必然といえます。一方で、何かを契機に馬産業で働きたいと思っても、何から手を付ければよいのか、相談する術を持たないのもまた事実です。JRAは（公社）競走馬育成協会とともに、このような若者と牧場をつなぐ窓口となる「牧場就業促進事務局」を務め、強い馬づくりを人づくりの側面から支援しています。昨年はこの窓口を通じて50名の若者が牧場に就労したと聞いています。今後BOKUJOBをはじめ、現場に寄り添った生産育成対策を続けていきたいと思っています。

令和元年度 育成技術講習会

(北海道地区)

日時：8月6日(火) 18:00～19:30

場所：新ひだか町公民館・コミュニティーセンター

内容：「育成馬のスポーツ栄養」～競走馬に向けての栄養を考える～

講師：JRA 日高育成牧場 主任研究役 松井 朗 氏

参加者：123名

主催：(公社)競走馬育成協会

講師：松井 朗 氏

プロフィール

平成4年にJRAに入会し、ほとんどの期間、馬の栄養の研究に従事してきた。栃木の競走馬総合研究所在籍中は、競走馬に視点をおいたスポーツ栄養をメインに研究し、現在も含め、日高に在籍中は、生産・育成に関連した研究をメインとしている。

スポーツ栄養という言葉から、アスリートが摂取する特別な栄養を連想する方がいらっしゃるかもしれませんが、その中身は健康的に日常を過ごすための栄養と同様であり、アスリートが生まれ持った潜在的な能力を遺憾なく発揮し、質の高いトレーニングを継続していくための栄養の採り方を表した言葉です。

ヒトの世界では、様々な競技においてスポーツ栄養は取り入れられています。競走馬の飼養管理においても、スポーツ栄養の考え方が取り入れつつあります。今回は、成長期でありながら競走馬となる準備期間である後期育成のスポーツ栄養について考えてみたいと思います。

今回の内容は、生産および育成の現場にとって、理解が難しいことは感じています。しかし、競馬をとりまく環境は日進月歩であり、いつまでも教科書どおりの話ばかりでは、「強い馬づくり」は“絵にかいた餅”になってしまいます。そこで、今回は、難解であることをご容赦願いつつ、競走馬の厩舎向けの講義を基に、後期育成のスポーツ栄養についてお話をしたいと考えています。

次の5つの項目について、解説をすすめていきます。

- ① 後期育成の飼養管理について
- ② 競走馬の飼葉をみる
- ③ 疲労困憊になりにくい体づくり
- ④ コンディションの維持

⑤ 食用油の利用

① 後期育成の飼養管理について

後期育成とは、サラブレッドのライフステージの中でどのような時期にあたるのかを、もう一度確認しましょう。サラブレッドが生まれてから競走馬になるまでの育成期間は、3つのステージに分けることができます。出生から離乳までの初期育成、離乳から騎乗開始までの中期育成、騎乗開始から競走馬になるまでの後期育成です。それぞれのステージからステージへの移行がスムーズであり、ストレスが極力小さいことが、育成馬の健康な発育および体力づくりに重要となります(図1)。

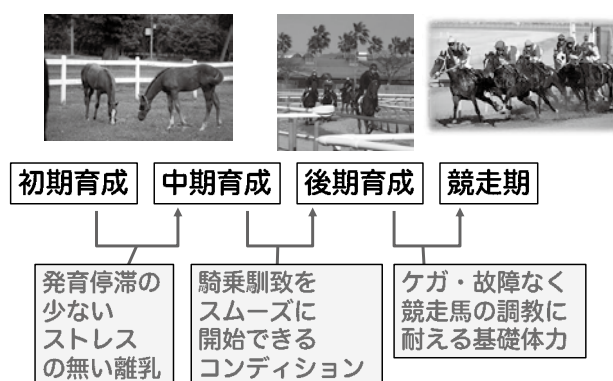


図1 育成期の次のステージに移行するときの前の課題

具体的な一例として、初期育成から中期育成の移行について解説します。初期から中期育成のステージへは離乳を経て移行しますが、離乳のストレスに

より発育は停滞します。一般的に、若馬の発育が一時的に停滞しても、その遅れを取り戻すような発育（代償的発育）がみられます。発育停滞が大きいとき、代償的な急発育がみられる場合があります、このことが離断性骨軟骨症（OCD）などの発症要因となることが知られています。そのため、発育停滞が小さくなるように、離乳時のストレスは少ないことが好ましいと考えられます。離乳ストレスや発育停滞を極力少なくする一つの手立てとして、離乳直後から母乳に換わる固形飼料にスムーズに移行できるよう、初期育成からスイートフィードとして飼葉を摂取させることが推奨されます。このように、各育成ステージにおいて、次のステージの移行を見据えた飼養管理が重要であると考えられます。

・JRA育成馬からみる近年の後期育成の調教強度

後期育成の次のステージは競走期ですから、トレーニングセンターや競馬場での強い調教に耐えられるような基礎体力づくりが、このステージの飼養管理の大きな目標となります。かつて後期育成の育成馬は、騎乗者の指示に従いまっすぐ走ることに重点がおかれてきました。しかし、近年、トレーニングセール等の普及もあり、競走期の調教に近い強度の運動が負荷されるようになってきています。

運動強度には、走速度だけでなく距離や馬場（坂路など）など様々な要因があるため、近年の後期育成における運動量の増加を、トレーニング内容で示すことは困難です。しかし、体重当たりのエネルギー給与量が同じであれば、体重変化が、運動強度のひとつの目安となります。そこで、一例としてJRA育成馬の体重の変遷をみてみたいと思います。現在のJRA育成馬が「JRA ブリーズアップセール」(BUセール)においてセリ形式で売却するようになったのは2005年度からであり、それ以前は多少様式の変化はありますが、抽選で馬の取引が行われていました。グラフにはBUセール以降と、BUセール以前の育成馬の競走期の体重を示しています(図2)。競走期の履歴が30走以上ある牡馬について、出走時の体重を1走毎に平均し、初出走から30走目までの平均出走月齢との関係を示しました。BUセール取引馬とBUセール以前の馬の比較から、両群の出走時体重に大きな差があることが分かります。1走毎の間隔の違いにも目がいきませんが、出走間隔について考察は、今回の主題でありませので割愛いたします。BUセール以降の馬は、あきらかに出走時体重が大きく、

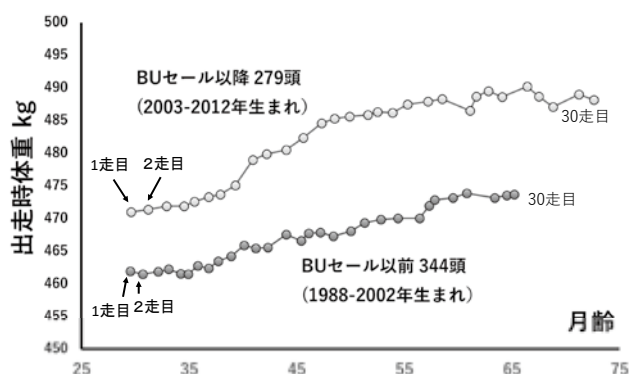


図2 ブリーズアップ (BU) セール前後の JRA 育成馬 (雄) の競走期の体重

競走期の出走時体重を1走目から30走目まで出走回毎に平均した。横軸は出走回毎の月齢の平均であり、30走以上の出走歴のある雄馬を抽出した。

時代とともに馬が大きくなっていることが分かります。ちなみにこの傾向は、雌のJRA育成馬ならびに他の競走馬についても同様であり、サラブレッドは育種改良により大きくなっていることが分かります。次に育成期の馬体重を、BUセール開始の前後で比較してみると、1歳の11月、12月および2歳の1月で、両群の体重にはほとんど差がないことがわかります(図3)。現在のJRA育成馬は、BUセールの騎乗供覧において、その時期の最高のパフォーマンスを発揮できるよう調教がおこなわれています。一方、BUセール以前の馬は、騎乗供覧が実施されていないことに加えて、馬取引がセリ形式でなかった(市場価値を上げるパフォーマンスの必要がない)こともあり、現在ほど強い運動は負荷されていなかったと推察されます。競走期からみるとBUセール以降の馬の体重が重かった(大きかった)にもかかわらず、育成期ではBUセール以前の馬と体重に差がみられなかったことから、BUセール以降の育成馬の調教強

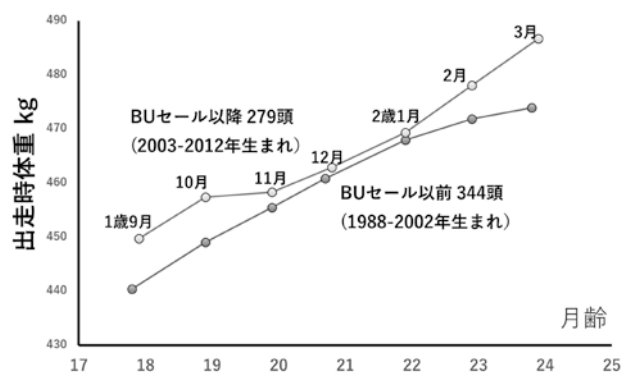


図3 ブリーズアップ (BU) セール前後の JRA 育成馬 (雄) の育成期の体重

育成期の1歳9月から2歳3月の毎月の体重を平均した。横軸は測定月の月齢の平均であり、競走期に30走以上の出走歴のある雄馬を抽出した。

度が、BUセール以前に比べて強くなったことが大きく影響していると考えられました。民間の育成牧場における同様のデータはなく、民間牧場と取引形式の変遷があったJRA育成馬と単純には比較できません。しかし、トレーニングセールの普及や競馬番組の改変など様々な環境の変化において、おそらくJRAの育成牧場同様に、以前と比較し育成馬の調教強度が強くなっていることは間違いのないでしょう。

・後期育成における育成馬の発育

かつて後期育成の調教強度が、現在ほど強くなかったことには、それなりの理由があったのではないのでしょうか。馬の生まれてからの骨の伸びと、増体速度は同じではありません。おおよそ12ヵ月齢で、体高は成馬の約94%に達しているのに対し、体重は成馬の約65%程度です。このような、馬の特異なバランスでの成長が、発育期整形外科的疾患（DOD）が発症しやすい要因のひとつになっています。

おおよそ24ヵ月齢で体高の伸びが止まることから、サラブレッドの成長が2歳齢で終わるという誤解もあるようです。グラフは、1985年から2014年生まれのJRA所属の競走馬から、雄は60走以上、雌は50走以上の履歴のあるものを抽出し、1走毎に各出走回の平均出走時体重の変化を示しています（図4）。雄雌共に初出走から5走目くらいまで出走時体重に下降がみられますが、6走目以降、出走回を重ねるにつれ出走時体重が増加していきました。一般的に、競走馬の馬体の調整において、過肥および消瘦は避けられることから、この体重増加は成長分といえます。横軸は各出走回の平均月齢であり、グラフより雄の出走時体重の増加が見られなくなるのがお

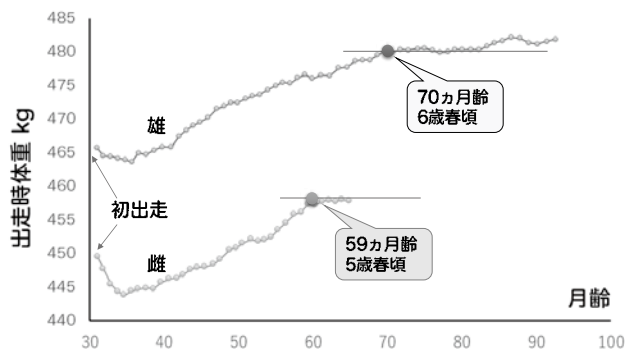


図4 中央競馬所属の一走毎の出走体重変化

1985-2014年生まれのJRA所属競走馬の1走目からの出走回毎の平均出走時体重の変化を示した。雄は60走以上の出走履歴のある馬を60走目まで、雌は50走以上の出走履歴のある馬を50走目まで示した。雄はおおむね70ヵ月齢、雌は59ヵ月齢で出走時体重の増加がみられなくなった。

おおよそ70ヵ月齢（6歳春頃）、雌はおおよそ59ヵ月齢（5歳春頃）であり、体重からみたサラブレッドの成長は5-6歳頃まで続くと考えられます。また、骨の成長は伸びだけでなく、石灰化という過程も含まれますが、全ての部位の骨の成長が終わるのはおおむね5歳頃とされており、今回示した出走時体重の成績とおおむね一致します。このことから、1歳秋から2歳春頃にあたる後期育成は、まだまだ発育の途上にあるといえます。単純な比較は難しいですが、この時期の馬は、ヒトの年齢にすると中学生くらいにあたるということです。

・発育と強い運動負荷のジレンマ

最近の高校野球で、成長期の体に無理な負担をかけ、将来を棒に振ることのないよう、監督がエリート選手を地方大会の決勝戦で起用しなかったことが話題になりました。近年、スポーツ選手を目指している成長期の若者に、過度の負担をかけることで成人後の選手寿命を短くしてしまうことが懸念されており、アニメ「巨人の星」にあるような幼少期からのスパルタなトレーニングは否定されています。ヒトの分野からみれば、後期育成馬のトレーニング強度の増加は、時代に逆行しているのかもしれませんが。一般的に、成長期に強い運動を負荷することは、ケガなどの他に、DODの発症もしくは悪化のリスクを高めることとなります。そのため、この時期は、成長と運動の両方を勘案した適切な栄養給与が非常に重要になります。そして、運動強度が強くなってきた近年は、栄養の給与量の増加と共に、栄養管理の重要性がさらに高まると考えられます。

② 競走馬の飼葉をみる

後期育成における栄養管理の重要性が高まるといっても、具体的な指針は何かあるのでしょうか？後期育成の調教強度が強くなるということは、競走期の運動負荷に近づいているとも考えられます。そこで、競走期の飼養管理を、後期育成に応用することが可能なかを検討していきたいと思います。

・馬における濃厚飼料給与について

その前に基礎的な知識として、濃厚飼料と粗飼料について解説します。濃厚飼料とは、燕麦などの穀類、粗飼料とは乾草や放牧草などの総称です。どちらの飼料も、馬にとって重要なエネルギー源であり、その基になる物質は炭水化物です。濃厚飼料中の主

な炭水化物はデンプンですが、デンプンは主に小腸において消化吸収されます（図5）。小腸は消化吸収のよい消化器官であり、濃厚飼料の消化率は非常に高くなります。一方、粗飼料の炭水化物は主に繊維であり、繊維は小腸では消化吸収されず、盲腸・結腸内において微生物の分解発酵作用を経て大腸より吸収されます（図5）。大腸は小腸に比べて栄養の消化吸収が悪いため、粗飼料の消化率は、濃厚飼料に比べ低くなります。濃厚飼料と粗飼料に含まれる、エネルギー量は1kgあたりおおよそ4メガカロリーとほぼ同じですが、消化率の違いから、摂取できるエネルギー量（可消化エネルギー）は、濃厚飼料が1kgあたりおおよそ3メガカロリーであるのに対して、粗飼料はおおよそ1.5～2メガカロリーです。このように、濃厚飼料は、粗飼料に比べて、効率的にエネルギーを摂取できるという特徴があります。しかし、馬への濃厚飼料給与は、このような利点だけでなく、欠点もあります。濃厚飼料を多量に摂取した場合、小腸で消化吸収できなかったデンプンが、盲腸に大量に流入し、“代謝性アシドーシス”と呼ばれる障害が発生します。流入したデンプンが、腸内の乳酸生成細菌によって分解発酵され、乳酸が作られますが、その量が多いとき、消化管内が過度に酸性化されます。この状態が“代謝性アシドーシス”であり、食餌性の疝痛や蹄葉炎の原因になるとされています。飼料として長所と短所があることを述べたうえで、競走馬の飼養をみていきましょう。

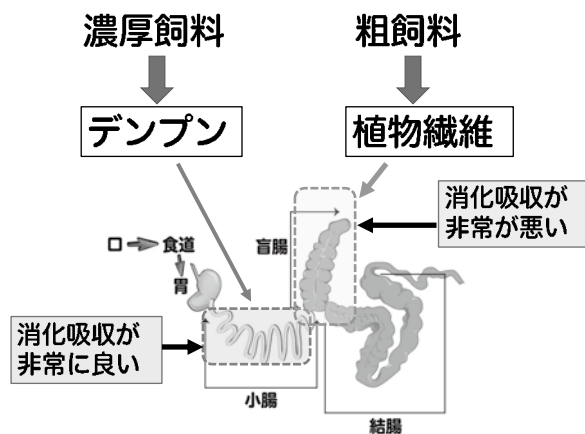


図5 濃厚飼料及び粗飼料の馬の消化器官における消化吸収部位

・競走馬の濃厚飼料給与

2013年度に東西の両トレーニングセンターの17厩舎で調べた濃厚飼料の給与量を、グラフに示しました（図6）。厩舎毎にバラつきはありますが、燕麦と配合飼料を合計した濃厚飼料の平均給与量は6.2kg

でした。ちなみに、2018年度のBUセールで売却した馬の2歳3月の、配合飼料と燕麦の給与量の計は5.6kgでした。調査した17厩舎のうち、最も濃厚飼料が多かった厩舎の給与量は9.9kgであり、最も少なかった厩舎の給与量は4.6kgでした。エネルギーの必要量が多い場合、エネルギー給与量を増やすには濃厚飼料が効率的です。では、濃厚飼料を9.9kg給与した厩舎は、4.6kg給与の厩舎に比べてエネルギーの必要量が大きかったため、濃厚飼料の給与量が多くなったのでしょうか？ 調査した全ての厩舎において粗飼料は給与されていますが、残念ながら正確な全体のエネルギー給与量は把握できていません。今回、同時にGPSを使い運動量も調査されていますが、濃厚飼料の給与量が多い厩舎が、特に運動量が多いわけではありませんでした。この調査結果から、競走馬に必要なエネルギーを給与するには、濃厚飼料を9.9kgと4.6kgのどちらの量を給与しても可能であったと考えられます。つまり、濃厚飼料の給与量が多い厩舎が、トータルのエネルギー給与量が多いのではなく、バランス的に濃厚飼料の給与割合が多くなっていると考えられました。そこで疑問になるのは、濃厚飼料の理想の給与割合があるのか、濃厚飼料の給与量はどのような基準で決められたのかということです。ちなみに、濃厚飼料給与量が多い厩舎と少ない厩舎で、競走成績に優劣がなかったことを加えておきます。

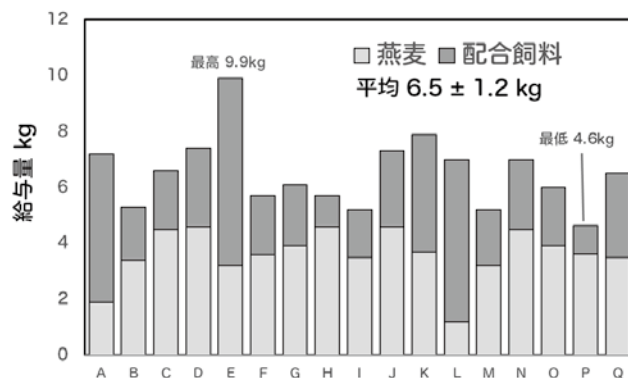


図6 中央競馬の東西トレセン（17厩舎）の1日の濃厚飼料給与量

・競走馬への濃厚飼料給与の目的

競走馬にどれくらい濃厚飼料を給与するのが理想なのかは、永遠のテーマかもしれません。馬の健康を考えるのであれば、必要なエネルギー量は、可能な限り粗飼料で給与するべきです。しかし、競走馬の場合、最大のパフォーマンスを発揮するには、濃厚飼料の役割を無視することができないのかもしれ

ません。科学的には、濃厚飼料が競走馬に必要なエネルギーを効率よく供給する以外に、運動能力にどのように影響するのかわかってはいません。しかし、多くの厩務員や調教師が経験的に、競走馬のパフォーマンス発揮に濃厚飼料の重要性を感じているのも事実です。濃厚飼料の摂取量が多いとき、馬のテンションが高くなると感じていて、それゆえに競走馬に積極的に濃厚飼料を給与する場合もあるようです。もちろん、競走馬の健康にとって粗飼料の摂取が重要であることも認識されており、濃厚飼料の給与量は抑えたいと考えている調教師、厩務員もいらっしゃいます。総合的にみると、競走馬においては、健康にリスクの無い範囲で、できるだけ濃厚飼料を多く給与することを目指し飼料設計されているようです。

・後期育成の育成馬に競走馬のような濃厚飼料の多給は必要か？

仮に濃厚飼料の摂取が、馬のテンションを上げる効果があるとするなら、競走馬にとって有用な場合があるかもしれません。また、濃厚飼料の摂取が運動生理的な代謝に影響するなら、パフォーマンスにより有用な摂取量を検索する価値はあるでしょう。しかし、後期育成は、馬のテンションを上げることや、短期的な競走能力への影響を模索する時期ではないと考えています。馴致ということを考えれば、馬のテンションが上がることは、むしろ好ましくないととも言えます。一般的には、成長期の馬に濃厚飼料を多給により、急激な発育やインスリン抵抗性がおこり、成長期特有の骨疾患（DOD）の発症要因となることが、海外の指導書などに記載されています。インスリン抵抗性などの発症試験は、濃厚飼料やそれに類する糖質を極端に多量に給与したものが多く、実際のサラブレッド育成馬の飼養管理環境で発症しうるのは明確ではありません。海外の教科書や、Webサイトで指摘されている濃厚飼料摂取とインスリン抵抗性の発症や、インスリン抵抗性とDOD発症関連を国内で言葉足らずで述べると、若馬への濃厚飼料給与が、即DOD発症につながるとの誤解を生む可能性を懸念しております。海外で報告されているインスリン抵抗性の症例のほとんどは、サラブレッド以外のほぼ牧草のみで飼養し、育種改良されてきた品種に関連したものです。数百年にわたり濃厚飼料を給与されながら育種されてきたサラブレッドは、代謝吸収に関して濃厚飼料の摂取にかなり適応して

いるのではないかと考えています。しかし、推察のみで判断できることではありませんので、馬族には濃厚飼料の多給によりインスリン抵抗性の発症例が多くある一方で、サラブレッドにおいてその分野の研究は不十分であり、かつ、国内において現場の症例がほとんどないということが現状であることを頭に留め置いてください。一方、サラブレッドにおいても、牧草を数時間も摂取しない絶食状態で、いきなり濃厚飼料を1回に3-4kg以上摂取するなど、急激に血中グルコース濃度が上昇するような極端な飼養管理が継続されれば、インスリン抵抗性になるリスクは高まると言えるかもしれません。

③ 疲労困憊になりにくい体づくり

後期育成の日々の調教は、競走馬になるための心肺機能の向上、筋肉の発達に重要です。競走馬になるためのトレーニングは、身体的な機能向上以外に、高強度の運動に耐えうる生理機能の向上も重要です。

運動を永遠に持続させることは不可能であり、やがては本来の能力が発揮できない状態に至ります。この状態が疲労困憊であり、パフォーマンスを向上させるには、疲労困憊になりにくい体づくりが必要です。そもそも、競馬という競技にとっての疲労困憊とはどのようなものなのか、また、具体的に疲労困憊になりにくいとはどのようなことなのかについてお話しします。

・競馬における疲労困憊

競馬は1,000から3,000m程度の距離で争われますが、競馬の運動強度および運動負荷は、ヒトの400mから800m程度の中距離走に近いといわれています。徒競走において、その途中で疲労困憊に達するということは、勝負に脱落することを意味します。中距離走において疲労困憊に至ると、最後のラストスパートで速度が出せなくなってしまうため、最終スパートで疲労困憊に達しないように、競技の中盤は走速度を抑えることとなります。疲労困憊に達しにくい選手は、競技中盤に、より速い速度で走ることができます。競馬においても、競走馬は最後の直線で失速しないよう、レース全般を全力で走破することはありません。疲労困憊になるにくい馬のほうが、中盤の速度をあげて追従する馬を疲弊させることや、ゴール前の直線で、ライバルより先着できる位置取りを選択することが可能となるでしょう。

マラソン等の長距離走での疲労困憊は、筋肉に蓄

えらえたグリコーゲンの枯渇が大きな原因とされていますが、中距離走の場合、それとは異なる要因により疲労困憊に至ります。中距離走において疲労困憊に至るのには様々な原因が考えられていますが、その中でも、筋肉の酸性化が大きいとされています。高強度の運動負荷により、筋肉内で酸性化の原因である物質がつくられ、過度に筋肉内が酸性化したとき、筋肉が正常に機能しなくなり運動の継続が不可能となります。運動中は、筋肉の正常な機能を維持できるように、筋肉内の酵素が酸性化を緩衝し、pHを上昇させるような作用をします。しかし、高強度の運動の継続により、酸性化に対する緩衝作用が、筋肉の酸性化にやがて追いつかなくなり、筋肉の正常な動作が損なわれ疲労困憊に至ります。トレーニングにおいて高強度の運動を繰り返し負荷することにより、筋肉内の酸性化の緩衝能力を向上させ、疲労困憊になりにくい体をつくることが期待できます。

・疲労困憊に至る原因

筋肉内で乳酸が生成される過程で、筋肉を酸性化させる主要な物質である水素イオンが放出されます。水素イオンが筋肉内に貯まると、筋肉は酸性化します(図7)。筋肉内での乳酸の生成量が少なくなれば、水素イオンの放出量も減りますが、競馬のような高強度運動において、乳酸の生成量を少なくするような調整は不可能です。また、パフォーマンスを発揮するためには、筋肉内における乳酸の生成は不可欠です。筋肉の酸性化を低減させるには、酵素の作用により水素イオンを還元することや、筋肉細胞の外に放出する必要があります。疲労困憊に至らないためには、乳酸の生成量を減らすことではなく、いかに効率的に筋肉の酸性化を緩衝するかを重視すべきです。

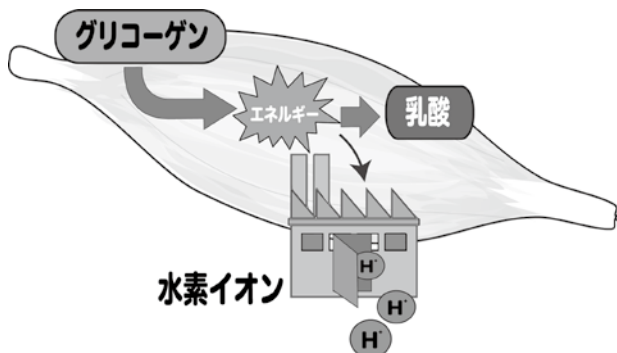


図7 筋肉内の水素イオン生成生成に伴う酸性化の模式図
高強度運動においてグリコーゲンから乳酸になるエネルギー生成の過程で水素イオンが放出される。

・疲労困憊になりにくくするための生理的なトレーニング

筋肉の酸性化を緩衝する能力が高まることで、パフォーマンスの向上が期待できます。後期育成からこの能力の向上を目指すことは、将来の成功のために非常に重要であると考えています。筋肉内で生成された乳酸が血液中に放出され、血中の乳酸濃度の上昇がみられるのですが、後期育成の調教に血中乳酸値が上がるような調教を多く取り入れることで、筋肉酸性化の緩衝能力の向上が期待できると考えています。血中の乳酸濃度の向上には、高速度や坂路調教など筋肉への負荷が大きい運動が効果的です。

運動の強度以外に、摂取栄養も運動中の乳酸値に影響を及ぼすことが知られています。燕麦を主体に給与したときとビートパルプを主体に給与したときで、運動前の安静時における、筋肉中のグリコーゲン量は、ほぼ同じでした。しかし、運動中のグリコーゲンの消費量は、燕麦主体給与の馬で多くなりました(図8)。乳酸は筋肉中のグリコーゲンからエネルギーが生成される過程でつくられますが、筋グリコーゲンが多く消費された燕麦主体給与の馬の運動後の筋肉中の乳酸値が38.5mmol/kgであったのに対して、ビートパルプ主体の馬では22.7mmol/kgでした。グリコーゲンの基となるのは主に濃厚飼料に多く含まれるデンプンです。ビートパルプにデンプンはほとんど含まれませんが、燕麦にはデンプンが非常に多く含まれます。この試験の結果から、グリコーゲンの基となるデンプンを多く摂取したほうが、筋肉中のグリコーゲンが多く利用され、乳酸の生成量

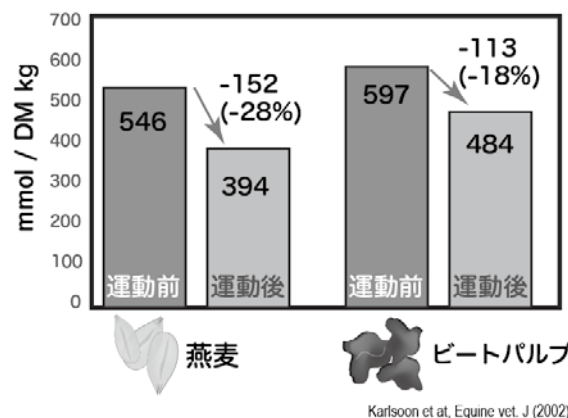


図8 給与飼料が運動中の筋グリコーゲン消費に及ぼす影響

燕麦主体給与とビートパルプ主体給与の馬の運動中のグリコーゲン消費量を比較したとき、燕麦主体給与で筋グリコーゲンの消費量が大きかった。その結果、燕麦主体給与の馬の運動後の筋中乳酸濃度は38.5 mmol/kgであり、ビートパルプ主体給与の時の22.7 mmol/kgに比べ多くなった。

も増えるということが分かりました。先に、後期育成において、濃厚飼料の給与は、エネルギーを効率よく摂取できる以外に、特にメリットが見つからないと述べました。しかし、濃厚飼料の摂取由来で乳酸の生成量が増加し、そこからさらに、筋肉の酸性化の緩衝能が向上するのであれば、後期育成においても、ある程度の濃厚飼料給与は有用であるといえます。

④ コンディションの維持

後期育成において、日々の調教を順調にこなしていくことが、競走馬になるための体づくりには重要であると考えられます。もちろん、このことは、トレーニングセールにおいてベストのパフォーマンスを発揮するためにも重要です。調教の進捗を遅らすのは、なにも怪我や故障だけでなく、コンディションが維持できなかつた場合も同様です。馬がコンディションを維持できなければ、段階的に運動強度を高めていくような質の高いトレーニングが行えなくなってしまいます。コンディションを維持していくには、運動中に、消費したものの、壊れたものを、至急に回復することが重要であると考えています。

・馬の筋グリコーゲン

筋肉などに蓄えられたグリコーゲンは、運動中に消費されます。図9は、イギリスの競走馬の日々の筋グリコーゲン濃度の変化を示しています。横軸の“G”すなわちギャロップ運動をした翌日、グリコーゲンは大きく減少し、減少前の量に回復するのは2から3日後になります。一般的に、消費した筋グリコーゲンの蓄積には時間がかかるとされており、特

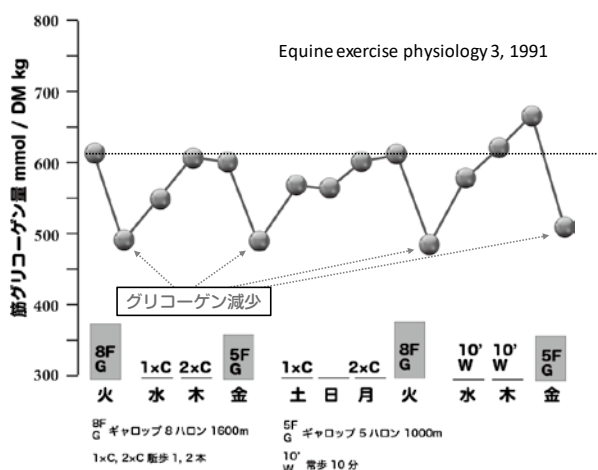


図9 騎乗調教中のサラブレッドに週一回、高強度のトレーニングを負荷した時の中殿筋のグリコーゲン濃度変化

に、馬は他の動物に比べても蓄積が遅いとされています。筋グリコーゲンは、消費と蓄積を繰り返し、一定の水準に維持されていますが、仮に、グリコーゲンの消費が大きく、蓄積が遅ければ、徐々に筋グリコーゲンの蓄積量は低減していくことになります。グリコーゲンとは体に糖を蓄えるための形態であり、グリコーゲンの蓄積量が減るということは、体内に確保している糖の量が少なくなるということです。動物にとって生体内に確保している糖は、自身の体で利用するためだけでなく、体内に入ってきた細菌やウイルスに対抗する免疫系のエネルギー源として重要です。生体内に確保した糖が減少することで、免疫力は低下し、コンディションは低下します。したがって、運動で消費した筋グリコーゲンは、増減の波がありながらも一定の水準で保つ必要があり、理想的には、毎回の消費したグリコーゲンを速やかに回復させるべきです。

・運動後のグリコーゲンの回復

筋グリコーゲンは、インスリンによって合成が促進されます。インスリンが筋肉の細胞膜上にあるアンテナの役割をしている受容体と呼ばれる部分に作用し、血液中のグルコースが筋肉の細胞に取り込まれます。筋肉内に取り込まれたグルコースは、その後合成されグリコーゲンとして貯蔵されます。運動直後は、運動の物理的刺激によって受容体の感度が高くなります。インスリン受容体の感度の上昇は、運動直後をピークに時間の経過とともに減少し、おおむね運動2時間後には運動前の状態に戻ります。この運動直後から2時間後までの時間は、“ゴールデン・タイム”と呼ばれ、グルコースなどの栄養が筋肉内に取り込まれやすい時間帯とされています。グルコースの源であるデンプンなどの糖類摂取後、血中のグルコース濃度が上昇し、膵臓よりインスリンが分泌されます。ヒトの研究において“ゴールデン・タイム”に糖類を摂取したとき、そのタイミングを過ぎてからの摂取に比べて、筋グリコーゲンの合成速度が大きくなることが報告されています(図10)。馬において、運動の直後に高デンプン飼料を給与したとき、他の飼料給与に比べ運動中に消費した筋グリコーゲンの回復が早かったことが報告されています(図11)。

・運動後の筋タンパク質の回復

このように、タイミングを勘案した栄養補給は、

ヒトのスポーツ栄養の分野では“ミサイル・ニュートリション（栄養）”と呼ばれ、届けたい時間・場所に栄養を届けることをミサイルでイメージしています（図12）。強い運動を負荷することにより、筋タンパク質は壊され（分解）、運動後に再合成されます。毎日のトレーニングを繰り返すことで、筋タンパク質の再合成が少しずつ分解を上回り筋肉は肥大していきます。しかし、逆に筋タンパク質の再合成が分解を下回ると、筋肉が萎縮することになります。現実には、トレーニングをしながら筋肉が萎縮していくという現象がみられる前に、コンディションが低下し、トレーニングの強度が維持できなくなるでしょう。これでは、日々トレーニングを積み重ね、パフォーマンスを向上させるという目標が達成できなくなってしまいます。運動により分解された筋タンパク質は、翌日のトレーニング開始までは再合成されるべ

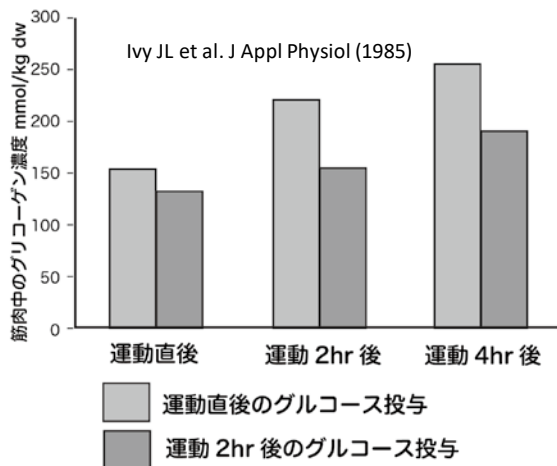


図10 運動後のグルコース摂取タイミングが筋グリコーゲンの回復に及ぼす影響（ヒト）

運動後2時間以内（直後）にグリコーゲンの元となるグルコースを摂取すると、運動2時間後以降に摂取した場合に比べ筋グリコーゲンの合成量が大きくなった。

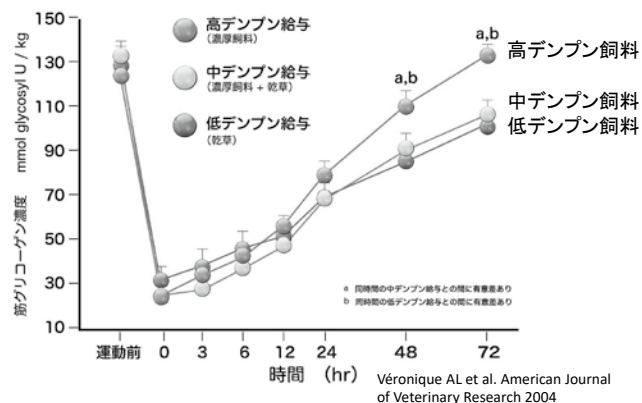


図11 運動後のデンプン給与がグリコーゲン回復に及ぼす影響

運動直後の馬にグリコーゲンの源となるデンプンを多給したとき、運動後48から72時間後のグリコーゲンの合成速度が亢進した。

きであり、理想的には、合成量が分解量を上回ることが望まれます。筋タンパク質についても、グリコーゲン同様に“ゴールデン・タイム”に、栄養補給をすることで合成が亢進することが知られています。筋タンパク質の合成を促進するには、筋タンパク質の重要な構成成分である分岐鎖アミノ酸（BCAA）の摂取が有効です。ちなみにBCAAは、バリン、ロイシンおよびイソロイシンの3つのアミノ酸の総称です。また、グリコーゲン同様に、筋タンパク質もインスリンの作用により合成が促進されます。そのため、糖類を摂取しインスリンの分泌量を増加させることも、筋タンパク質の合成の促進には有用です。ヒトのアスリートでは、筋タンパク質が壊れるような高強度運動後の早いタイミングでアミノ酸（主にBCAA）と糖類を摂取し、筋タンパク質の再合成を促進する栄養処方は常識になっています（図13）。私たちの研究で、運動直後のサラブレッドにBCAAとグルコースを補液投与したとき、筋タンパク質の合成が促進することが分かっています（図14）。後期育



図12 ミサイル・ニュートリションのイメージ図

運動に合わせて消耗した物質や壊れた組織を回復するために効果的なタイミングでニュートリション（栄養）摂取する栄養処方を表す造語である。

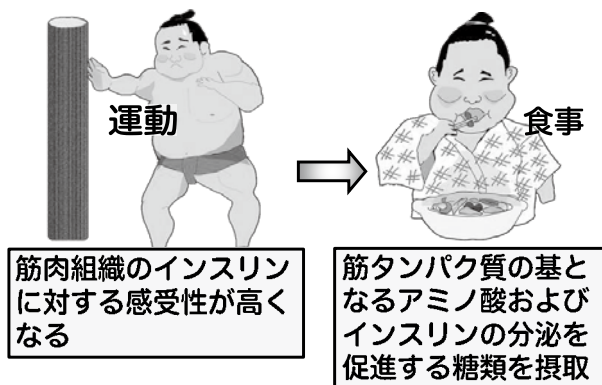


図13 アスリートで実践される筋タンパク質合成促進のための栄養処方

強い強度の運動直後にアミノ酸および糖類を摂取することにより筋タンパク質の合成を促進する栄養処方は、ボディービルダーや様々な競技のアスリートで実践されている。

成の馬においても、運動後の“ゴールデン・タイム”にBCAAならびに糖類を摂取することで筋タンパク質の合成が促進することが期待できると考えています。試験は補液で実施しましたが、その際に投与したBCAAおよび糖類は、燕麦0.5kg、脱脂大豆0.5kgに含まれる量に匹敵します。この栄養処方を実践する場合、わざわざこのために燕麦と脱脂大豆を用意しなくても、おおむね一般的な配合飼料1kgで、先のBCAAおよび糖類の給与は可能です。調教の主運動終了後に、急いで飼料を給与しなければいけないと誤解されることもありますが、調教後のクーリングダウン終了直後であれば、まだ“ゴールデン・タイム”中であろうから、厩舎に戻ってから馬房にて配合飼料1kg程度を給与するのがよいでしょう。

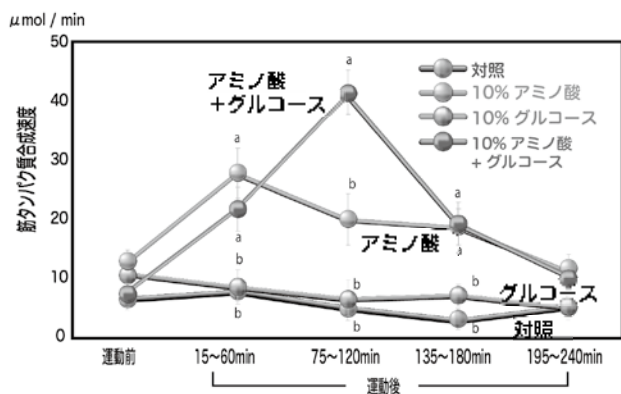


図14 運動後のサラブレッドへの栄養溶剤投与が筋タンパク質の合成速度に及ぼす影響

運動後に対照（生理食塩水）、アミノ酸、グルコース、アミノ酸＋グルコース溶剤を投与したときアミノ酸＋グルコースの投与において筋タンパク質の合成速度が最も高くなった。

⑤ 食用油の利用

サラブレッドの飼養に食用油を加えることは、近年では珍しくなくなりました。食用油の給与の目的は2つあると考えています。ひとつは、同量の濃厚飼料に比べて、2倍のエネルギーが含まれるので、太りにくい馬や食の細い馬に効率的にエネルギーが供給できるということです。もうひとつは、濃厚飼料の一部を食用油に置き換えることで、デンプンの給与量を減らすことができるということです。馬に給与エネルギーを増やす方法として、濃厚飼料の給与を増やすことが一般的ですが、当然、濃厚飼料の主成分であるデンプンの摂取量が増えます。デンプンの多給は、食餌性の疼痛や蹄葉炎、また、タイイングアップ症候群（スクミ）発症の要因となるとされています。これらのデンプンの多給に由来する疾患の発症を防ぐため、濃厚飼料の給与量を減らし、

その代わりに食用油を給与することが有用です。

海外のWebサイトなどに、食用油に給与は、馬の気質を穏やかにする効果があるような記述を目にすることがあります。正確には、食用油の摂取にはそのような効果はありません。先にも述べたように、濃厚飼料に含まれるデンプンが、馬のテンションを上げる可能性があるのに対して、食用油にはそのような効果が無いことから、逆説的に“気質が穏やかになる”かのように言われているのでしょう。

競馬において、馬のテンションが上がることを求められる場面があると考えています。もちろん、馬が落ち着いていたほうが、より能力を発揮できる場合もあるので、常にテンションが高いことがいいとは考えていません。仮に、デンプンの摂取により馬のテンションを上げる効果があるのであれば、競走馬に濃厚飼料を積極的に給与するという考え方があってもよいと思います。しかし、後期育成は、調教の強度が強くなってきたとはいえ、未だ騎乗者の指示に従いまっすぐ走ることを学ぶ時期でもあり、テンションをあげることが好ましいとはいえません。馬の気性は生来のものが大きいですが、テンションが高く扱いにくい馬の場合、濃厚飼料の給与量を減らし、代わりに食用油を給与することにより、少しでも馬をコントロールしやすくすることが可能になるかもしれません。

ここまでの話の中で、食餌性疾患のリスクやテンションが高まりすぎる可能性があるなどの理由により、後期育成の馬に濃厚飼料を過度に給与することは好ましくないと解説しました。一方で、濃厚飼料の給与は、運動中の乳酸生成を増やし、筋肉の酸性化の緩衝能力向上に効果があるかもしれないと話しました。聞かれている方からすれば、「いったいどっちなの?」「では濃厚飼料は何kg与えるのが良いの?」と言われてしまうかもしれません。一般的に馬はエネルギーの必要量に応じて飼料を摂取するた



め、濃厚飼料の摂取量が多くなれば、粗飼料の摂取量は減少します。したがって、消化器官の健康のため、濃厚飼料の給与量が多すぎることにより、粗飼料の摂取量が体重の1%を下回ってしまわないように注意する必要があります。しかし、それ以外に、後期育成の馬に対する適切な濃厚飼料給与量に関する、明確な答えは持っていません。ただ、解説してきた情報を基に、「馬が元気過ぎるので給与量を減らす」、「スクミになりやすいから減らす」、「乳酸が高まるトレーニングをしたいから増やす」など目的をもって、濃厚飼料の給与量を検討していただきたいと考えています。

今回のお話において、後期育成においてどのような飼養管理が理想なのかは示すことはできていません。アスリートの卵である後期育成の育成馬には、どのような環境的な背景があって、競走馬になる準備として、栄養面でどのようなことを頭に置いておくのがよいのかを考察しただけです。この中から、皆様が管理する育成馬の今後の栄養を考えるうえで、何かしらのヒントになることがあれば幸いです。

質疑応答

Q：ビートパルプの栄養価について。ペレット状とクラッシュで違いがあるのか。

A：違いはない。

Q：運動後2時間以内のタンパク摂取が重要とのことだが、運動前の飼料の給与タイミングについてはいかがか。

A：日常トレーニング前は、空腹がよいとされる。一方で先日のデュレン先生の講義では、強運動時の胃酸による胃潰瘍を防ぐ意味でルーサンひとつかみを与える効果が指摘されていた。また生理的には運動3時間前に血糖値（インスリン）を上げることがよくないとされるが、私は運動に必要なエネルギーの供給として、必要と考えている。

Q：運動後2時間以内の摂取とは、強運動後の時間で、クーリングダウン後ではないとの理解でよいか。

A：基本的には早い方がよいが、運動直後に息も入らず、体温も下がらない状態は良くない。1時間も経てば落ち着いており、そのタイミングでよい。

Q：夜飼を実施する意義についてのお考えは。

A：馬の消化器官の機能からも給与回数は多い方が健全である。運動との関係はみえづらいが健康面での意味がある。

Q：切草は必要なのか。デュレン先生の講義では不要とされていたが。

A：入れたほうがよいと考える。切草を噛むことで胃酸を緩衝できる唾液が多くでる効果がある。飼料が小腸でしっかり消化されるためにも少しずつ流れ込む方が好ましい。馬には食べにくい分だけ、切草にはそういうメリットもある。

Q：松井さんがもし調教師だったら、シンプルな給与として必要なものは？

A：えん麦は必須（テンションあげる点も肯定的に考えている）、あとはビタミン・ミネラルをバランスよく給与するために配合飼料、それ以外は切草とチモシー乾草でよい。

育成技術講習会 in 北海道

育成馬のスポーツ栄養 ～競走馬に向けての栄養を考える～

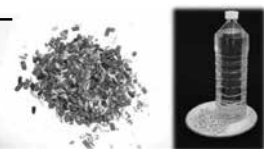
講師：JRA日高育成牧場 主任研究役 **松井 朗氏**

平成4年に競馬会に入会し、ほとんどの期間、馬の栄養の研究に従事している。栃木の競走馬総合研究所在籍中は、競走馬に視点をおいたスポーツ栄養をメインに研究し、現在も含め、日高に在籍中は、生産・育成に関連した研究をメインとしている。今回の後期育成期を対象とした講演に内容は、生産地と競馬場の両方に根ざした物と考える。成長中でありながら、アスリートの卵として鍛錬される若馬の栄養を考える

日時：8月6日（火） 18:00～20:00

場所：新ひだか町公民館・コミュニティセンター
(日高郡新ひだか町静内古川町1-1-2)

- 1 「競走馬の飼料を見る」
- 2 「疲労困憊になりにくい体づくり」
- 3 「コンディションの維持」
- 4 「植物油の利用」 その他



お問い合わせ：

公益社団法人 競走馬育成協会

TEL 03-6809-1821

競走馬育成協会 北海道支部

TEL 0146-42-2544

主催 公益社団法人 競走馬育成協会 ホームページ <http://www.ttda.or.jp/>

共催 日本中央競馬会・公益財団法人 軽種馬育成調教センター

令和元年度「育成等に関する懇談会」を開催

JRA と競走馬育成協会との「育成等に関する懇談会」は平成12年度から継続して開催されています。令和元年度の懇談会は9月27日(金)13時20分からJRA 本部9階第3会議室において、JRA から横田貞夫馬事担当理事、小玉剛資馬事部長、和田信也生産育成対策室長ほか担当職員、競走馬育成協会から栗田会長をはじめとし地域団体を代表する理事等(欠席理事2名)のほか担当職員が出席して開催されました。

開会挨拶

最初にJRA 横田理事より、以下の内容の挨拶がありました。

- ① 飼料添加物グリーンカルに禁止薬物が混入していたことの謝罪、チェック体制の強化、販売前検査の徹底等、再発防止に向けた取組みを徹底。
- ② 競馬サークルの人材確保は競馬サークル内の大きな課題であり、全面的に支援。
- ③ 競走馬の生産振興を支援する事業を、より効果的・効率的に実施できるような取組み。

続いて当協会栗田会長より、以下の内容の挨拶がありました。

- ① 桜花賞馬と皐月賞馬が前哨戦を省いたローテーションで勝利は、育成施設と調教技術の進歩の証。トレセン入厩時の仕上がりや新馬馴致等、育成牧場の技術は不可欠。
- ② 就職希望者減少の現在、競馬学校厩務員課程や地方競馬との競合で育成牧場は苦慮。外国人材への依存増加、早急に全国の生産・育成牧場で外国人労働者の勤務実態を調査し、対応策の研究が必要。

セリ市場の動向

最初にJRA から「セリ市場の動向」の報告等がなされました。

暑熱対策

続いてJRA から「暑熱対策」について説明がありました。これに関連して、中央競馬でのナイターの

困難さや北海道開催日数の増加に関する意見が交換されました。

JRA 施設内で競走馬に与える飼料の管理体制強化

その他にもJRA からトレセン内で安心して給餌できる環境を作るため「飼料の管理体制強化」について説明がありました。

BOKUJOB の活動状況と育成等を取り巻く状況について

次に当協会から「BOKUJOB の活動状況」の報告と以下に記載した「育成等を取り巻く状況について」を披露し、それらに対するJRA の見解等が示され、それぞれに意見交換がなされました。

「育成等を取り巻く状況について」

毎年各所で繰り返される自然災害と闘いながら、生産地やトレセン周辺における育成牧場は、トレセンが実施していない競走馬に育つための初期馴致や出走臨戦態勢のための出走間の維持調整を実践し、新馬戦をはじめとした出走頭数の確保に寄与しています。育成牧場は競走馬のライフサイクルのひとつのステージとなっており、中央競馬の安定には不可欠な役割を担い、高度で繊細な技術を求められているのです。しかし、他の分野に比べて、その評価と支援は十分に届いているのでしょうか。

「育成」という業界を安定して成熟させることが、現在の中央競馬を維持していくことにつながると思われます。そのためにも育成業界への各方面からの十分な配慮がより一層必要になってまいります。出走馬の充実に貢献している成果と強い馬づくりに必要不可欠な役割を担っていることが評価され、育成という業界が安定的に活動できるようJRA の強い支援が望まれるところです。

1. 人材の確保・養成について

育成調教に係わる人材の確保と養成は競馬サークル全体の深刻な課題となっています。最近では日本の社会問題でもある少子高齢化や景気動向による他種

業界の雇用環境の改善等の影響を受けて、軽種馬産業界は就労者の獲得に苦慮する状況が続いています。また競馬学校の年齢制限撤廃による人材流出の影響は大きく、人材不足は想像以上に深刻です。

当協会を事務局にJRAほか関係5団体が連携して「競走馬の生産育成牧場への就業者参入促進事業(BOKUJOB)」を実施しており、地味ながら着実に成果をあげてはいます。しかし、それ以上に若者の減少や他業種との競合等の現実は厳しく、新規に就労する者の数は減少を食い止めるのに必死です。

また育成牧場という性質上、騎乗技術者の養成は必要不可欠です。業界としても労働環境の改善等に取り組むことで、騎乗技術者の養成につながるものと認識していますが、育成預託料を抑えることも求められ、有望な人材が中央競馬へ流れることを引き留めるだけの魅力を提示することができないでいます。

これらのことから業界では労働力不足を外国人労働者に依存するようになってきています。日本人の若者には多くの魅力的な職業が提示されており、この業界は対抗できる魅力を示せないのも一因です。人材不足のため十分な飼養管理ができないので、馬房に余裕があるのに預託の依頼を断らざるを得ないという現実が、あまりにも深刻な現状を表しています。牧場や地方競馬で外国人材の登用が避けられない現実となってきた以上、いずれJRAにも何らかの影響が及ぶであろうことから、実態を調査し現状を把握する必要があります。

競馬の恵みが循環することで育成牧場もある程度潤い、若者に魅力的な労働条件を提示できるようにならなければなりません。今後とも就労者の獲得や騎乗技術者の養成はもとより、就労者が定着できるよう育成牧場の経営基盤の安定にも、JRAの多方面からの支援を強く願うところです。

2. 育成技術表彰について

新馬戦に向けた入厩前の若馬育成や次走に向けて臨戦態勢での維持調整といった昨今の育成牧場に求められる業務の証として、育成技術表彰事業は会員から強い関心と意欲をもって注目されています。

平成30年度のJRA助成予算において褒賞費総額を増加していただいたことから、褒賞単価は67,900円(平成29年度58,000円)となりました。令和元年度は褒賞単価を平成30年程度に想定し、リステッド競走の導入に合わせて対象競走を拡大するため褒賞費総額を増加していただいています。一方で競走体系や競走

数等が年々変化したり、当協会会員育成場の育成馬の表彰実績がたいへん高かったりすることから、協会の育成技術表彰規程に定める原則単価100,000円にはまだまだ届きません。

生産牧場は現在まで経営基盤に様々な対策がなされてきましたが、育成牧場は後発で役割が高まってきたことから、生産者賞のような制度はなく、直接的に成果が反映されるのは「育成技術表彰制度」だけであります。この「育成技術表彰制度」の全体的な価値を拡大し、競馬サイクルの一翼を担う育成牧場の基盤整備に寄与することが望まれるのではないかと考えられます。そうした還元が就労環境を整え後継者の養成や育成技術者の確保等につながると思われますので、さらなる支援の増強をお願いします。

一方、JRAのご協力により競馬場における2歳ステークス競走の会員表彰を現在重賞6競走で実現しており、会員の大きな励みとなっています。引き続き表彰機会の提供をお願いするとともに、対象競走の拡大についても検討をお願いします。

3. 育成牧場の基盤強化対策について

育成牧場には、人材確保、技術者養成、技術向上、設備投資が必要です。農業に分類される業種ではないため公的で有利な融資等の制度はなく、その一方で設備投資等の規模は大きくなってしまいます。また何よりも人材確保の面から経営基盤安定が不可欠になります。

低金利時代を反映して、利子補給事業は平成29年から30年の2年間で新規7件を開始しました。今は各牧場と金融機関が前向きにこの制度を利用するようになってきたと思われれます。制度の安定的な維持が必要です。

一方、競馬関連機材等有効活用事業については、JRAに様々なご協力をいただいております。この事業は牧場経営上の即効性があることから、会員の関心と要望も強く抽選倍率も高くなっています。より多くの機材が育成牧場で有効に活用できますよう、関係団体を含め、より一層の援助を期待するところです。

JRAの見解と懇談内容

1. 人材の確保・養成について

JRAからは、BOKUJOB活動による人材確保は重要であり、競馬サークル全体で取り組むべき課題であると認識しており、直近では、東京競馬場の乗馬

センターにおいて乗馬未経験の牧場就業希望者を対象に馬のお世話体験会を BOKUJOB 企画として実施、あるいは北海道静内農業高等学校馬術部を取り上げたテレビ番組を制作・放映しており、引き続き協力していきたい、という見解が示されました。

当協会からは、令和元年から開始した「BTC・JBBA 合同研修コース体験入学会」は非常に効果的であり、引き続き実施していく考えを示しました。一方で、現在の若者は馬の世界への入り口に興味を引くことが非常に困難であり、イベントへの参加者を減少させないためには膨大な努力が必要であることを理解してもらうとともに、馬の仕事に対して興味をもってもらえるよう全国各地のウインズ等で乗馬イベントをさらに充実してほしい旨を伝えました。

2. 育成技術表彰について

JRA として「育成技術表彰」の重要性は認識しており、令和2年度も引き続き予算の増額に向けて調整しているところです（令和元年度はリステッド競走を対象とすることで、全体額が大きく増額となりました）。また競馬場での表彰については、レースの遅延につながるため、増やすことは難しいかもしれないが、現在実施している競走については引き続き実施できるように努めていきます、との見解が示されました。

3. 育成牧場の基盤強化対策について

競馬関連機材有効活用事業については、平成30年20件、令和元年は27件でありました。JRA としても必要な機材の更新を実施することで有効に活用できると考えているため、引き続き要望に答えられるよ

うに努めていきます、との見解が示されました。

これらのテーマについては以上のような内容でありましたが、この懇談会は比較的自由な意見交換ができるように設定されており、この他にも、以下のような内容について様々な懸念表明や意見交換がなされました。

「利子補給事業の上限額の引き上げの可能性については、競畜振の予算との関連もあり慎重な対応が必要。」
「トレッドミル等の設備投資への補助の検討については、ニーズの調査等が必要か。」

「馬産地の獣医師・装蹄師不足。JRA も同様で派遣等は困難。スキルアップへの助力は JRA で協力可能。」
「トレセンの馬房削減状況については、東西各1900馬房まで削減予定。育成場としては預託枠減少があった場合の入厩難を懸念。」

「外国人労働者の取り込み。JRA は個人所有の海外競馬場へ寄付等は無理。テキストや DVD 作成（JRA 育成牧場管理指針～引き馬と展示編）～（ヒンディー語版）で協力。」

「英語競馬用語集の復刻を希望。その後、JRA では復刻の方向で調整中。協会ホームページには厩舎英語表現集を掲載。」

「競馬学校厩務員課程の応募要件緩和後の応募状況の説明。雇用ルールに年齢制限を設けることは問題。牧場未経験の厩務員課程受験者に対し、牧場へと間口を広げるよう積極的に BOKUJOB を紹介。」

「育成牧場賞の新設等、育成業界への手厚い支援の要望。」

行事 2

定時総会開催

令和2年度定時総会は、令和2年2月14日（金）14時に日本中央競馬会本部（六本木事務所）9階第5会議室において開催されました。

栗田晴夫会長からの開会挨拶に続いて、農林水産省競馬監督課和田剛課長補佐、日本中央競馬会横田貞夫馬事担当理事から来賓祝辞をいただきました。

引き続き、議長に荻野豊氏が選出され、以下の議案の審議に入り、原案の内容にて承認されました。

第1号議案「令和元年度事業報告及び令和元年度財務諸表について」

第2号議案「令和2年度会費等の額及び徴収の方法について」

第3号議案「役員の報酬等の支給に関する規程の改正について」

育成技術講習会

令和元年

令和元年度の育成技術講習会は、JRA、BTC、当協会の3団体共催として、以下のとおり開催いたしました。各講習会とも会員はじめ生産・育成関係者及びトレセン関係者等多数の参加を得て、好評を博しました。

○北海道地区

8月6日（火）18:00～19:30
 新ひだか町公民館・コミュニティーセンター
 演 題：「育成馬のスポーツ栄養」～競走馬に向けての
 栄養を考える～
 講 師：JRA 日高育成牧場 主任研究役 松井 朗 氏
 参加者数：123名 育成協会主催
 （詳細は2ページからの特集記事をご覧ください）

○関西地区

11月13日（水）13:00～14:00
 JRA 栗東トレーニングセンター 乗馬苑
 演 題：「馬のバランスを整えるとは何か」～実馬を用
 いた講習会～
 講 師：JRA 馬事公苑 普及課 戸本 一真 氏
 参加者数：176名 JRA 主催
 ※ [育成協会 HP](#) において動画配信しております。

○東北地区

9月5日（木）13:30～15:00
 八戸家畜市場
 演 題：「競走期に影響を及ぼす若馬の疾患とは」
 講 師：JRA 日高育成牧場 生産育成研究室長 佐藤 文夫 氏
 参加者数：30名 BTC 主催



○関東地区

11月27日（水）13:00～14:00
 JRA 美浦トレーニングセンター 乗馬苑
 演 題：「馬のバランスを整えるとは何か」～実馬を用
 いた講習会～
 講 師：JRA 馬事公苑 普及課 戸本 一真 氏
 参加者数：111名 JRA 主催 ※雨天
 ※ [育成協会 HP](#) において動画配信しております。

○九州地区

9月26日（木）13:30～15:00
 （公社）日本軽種馬協会 九州種馬場
 演 題：「競走期に影響を及ぼす若馬の疾患とは」
 講 師：JRA 日高育成牧場 生産育成研究室長 佐藤 文夫 氏
 参加者数：31名 BTC 主催



令和2年

令和2年度の開催については、新型コロナウイルス感染拡大防止等の観点から、未定となっています。

育成技術表彰事業

1. 育成技術表彰事業について

- (1) 平成11年11月29日制定「育成技術表彰規程」により、平成12年度から現在の表彰事業が重賞競走を対象に開始されました。
- (2) 平成13年度には、育成段階の成果が反映され易いと考えられる新馬競走が表彰対象に加わり、重賞競走とともに表彰が行われてきました。更に、順次表彰対象の拡充・充実が行われ、平成31年度（令和元年度）にはリステッド競走が新たな対象となりました（表1）。

2. 平成31年度（令和元年度）の表彰事業について

- (1) 平成31年度（令和元年度）の表彰件数は、対象538競走のうち、338競走となった。2歳新馬競走が82.3%、2歳重賞（含交流）・リステッド競走では85.0%という高い該当率となっており、全体でも62.8%

という高い水準となった。これは338勝という数字と共に、平成18年に現行の表彰対象競走となって以降、最高の該当競走数と該当率であった。

- (2) 平成31年度（令和元年度）の表彰対象者は、表3のとおりです。

3. 令和2年度の実施について

- (1) 表彰要件等については昨年から変更はありません（表2）。
- (2) 平成20年度に実現した重賞2歳ステークス競走の施行場における育成者表彰対象は、従来通り、札幌・函館・新潟・小倉・デリー杯及び京王杯の各2歳ステークスの6競走としておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、札幌・函館・新潟・小倉は中止となり、11月の京王杯・デリー杯についても実施は未定となっています。

表1. 育成技術表彰事業の推移

区 分	表彰対象及び拡充の経緯	(表彰件数)	区 分	表彰対象及び拡充の経緯	(表彰件数)
平成12年度	2歳重賞・3歳重賞 障害重賞・3歳（4歳）以上重賞 競走の3歳馬・ダート重賞交流競走 （3・4歳限定）	39件	平成21年度		225件
平成13年度	2歳新馬競走	147件	平成22年度		230件
平成14年度		163件	平成23年度		229件
平成15年度	特定の重賞競走、表彰要件の緩和 （育成期間5ヶ月以上）	125件	平成24年度		250件
平成16年度	3歳新馬競走	195件	平成25年度		232件
平成17年度		185件	平成26年度		272件
平成18年度	3歳オープン競走	201件	平成27年度		280件
平成19年度		213件	平成28年度		275件
平成20年度		218件	平成29年度		284件
			平成30年度		295件
			平成31(令和元)年度	リステッド競走	338件

表2. 令和2年度の実施について

種 目	表彰要件（注1、2）	賞 金	備 考
1. 新馬競走 2歳新馬競走 3歳新馬競走	満1歳になる年度の9月1日～12月31日 までの間に騎乗馴致を開始し、翌年の5月31 日までの期間に継続して150日以上育成し、 優勝した馬を育成した正会員	原則10万円	ただし、賞金総額が予算 額を上回った場合、単価 切り下げを実施。
2. 2歳重賞競走等 (1) 2歳重賞競走 (2) 2歳重賞指定交流競走（地方競馬施行） (3) 2歳リステッド競走			
3. 障害重賞競走	継続して60日以上障害調教を行った馬であっ て、トレセン等入厩後42日以内に障害試験 に合格し、優勝した馬を育成した正会員		
4. 平地重賞競走等（2歳限定競走を除く） (1) 平地重賞競走 (2) 平地リステッド競走	トレセン等入厩直前に、継続して14日以上 育成調教を行った馬であって、トレセン入厩 後30日以内に優勝した馬を育成した正会員		
5. 1～4以外の平地オープン競走 （2歳及び3歳限定競走を除く）		原則10万円	ただし、賞金総額が予算 額を上回った場合、単価 切り下げを実施。

注1. 前年度の12月31日現在、当協会の正会員であること。

注2. ただし、障害重賞競走にあつては、障害調教開始日現在において、当協会の正会員であること。

表3. 平成31年度(令和元年度)育成技術表彰対象会員一覧

会員名	代表者名 (敬称略)	地域	表彰件数																	
			合計	新馬		2歳重賞・リステッド						2歳交流重賞			3歳以上重賞・リステッド				障害重賞	3歳以上オープン
				3歳	2歳	G I	G II	G III	L	JPN I	JPN II	JPN III	G I	G II	G III重賞	L				
ノーザンファーム	吉田 勝己	北海道	106	10	83	2	2	4	2								1		2	
(株) レッキスホースパーク	吉田 俊介	関西	32												6	1	13	9	3	
社台ファーム	吉田 照哉	北海道	23	8	15															
(株) マエコーエンタープライズ大山ヒルズ	前田 幸治	関西	19	1	11	1		2				1					1	1	1	
ノーザンファーム天栄	吉田 勝己	東北	15											2	4	7	2			
(株) 吉澤ステーブル	吉澤 克己	北海道	14	5	8			1												
(有) ファンタストクラブ	古岡 宏仁	北海道	9	3	5											1				
(株) シュウジテイファーム	石川 秀守	北海道	9	1	8															
(有) ビッグレッドファーム	岡田美佐子	北海道	8		7			1												
(株) グリーンウッドパーク	永山 正喜	関西	6												1	2	1		2	
(株) 吉澤ステーブルWEST	吉澤 克己	関西	6												1	3	1		1	
(有) フジワラファーム	藤原 俊哉	北海道	5	1	4															
(有) 宇治田原優駿ステーブル	八木 秀之	関西	5													3	2			
追分ファーム(リリーバレー)	吉田 晴哉	北海道	4	1	3															
(有) ケイアイファーム	中村 祐子	北海道	4		3												1			
(有) コスモヴェーフาร์ม	岡田亜希子	北海道	4		4															
(有) 坂東牧場	坂東 正積	北海道	4	2	2															
(有) ヤマダステーブル	山田 秀人	北海道	4		3						1									
(有) 下河辺牧場	下河辺俊行	北海道	3		3															
(株) エクワインレーシング	瀬瀬 賢	北海道	3		3															
(有) 三嶋牧場	三嶋 昌春	北海道	3		3															
(有) 目名共同トレーニングセンター	岡田 隆寛	北海道	3		3															
(株) 吉永ファーム	吉永 正志	北海道	3		3															
(株) 愛知ステーブル	近藤 秀典	北海道	2	1	1															
(株) 小国ステーブル	小国 和紀	北海道	2		2															
(有) キタジョファーム	北所 直人	北海道	2	1	1															
田口トレーニングファーム	田口 廣	北海道	2	1	1															
(有) 武田ステーブル	武田 茂男	北海道	2		2															
(有) 千代田牧場	飯田 正剛	北海道	2		2															
(株) 西山牧場	西山 茂行	北海道	2		2															
錦岡牧場	土井久美子	北海道	2		2															
(有) ヒダカファーム	近藤 聡明	北海道	2		2															
(株) 森本ステーブル	森本 敏正	北海道	2		2															
(株) アクティブファーム	加藤 祐嗣	北海道	2		2															
(有) ノルマンディーファーム	岡田 牧雄	北海道	2		2															
社台ファーム山元トレーニングセンター	吉田 照哉	東北	2												1				1	
(株) リバティホースナビゲイト	佐久間拓士	関東	2		1											1				
(有) グランドファーム	衣斐 浩	北海道	1	1																
(有) グランド牧場	伊藤 佳幸	北海道	1	1																
(有) グリーンマイルトレーニングセンター	矢野 琢也	北海道	1	1																
(有) 高昭牧場	上山 泰憲	北海道	1		1															
(有) 谷岡牧場	谷岡 康成	北海道	1		1															
(有) 日高軽種馬共同育成公社	鳴海 修司	北海道	1		1															
(有) 日高大洋牧場	小野田 宏	北海道	1		1															
テンコー・トレーニングセンター	島川 智行	東北	1													1				
マウンテンビューステーブル(株)	長尾 研司	東北	1																1	
追分ファーム山元トレーニングセンター	吉田 晴哉	東北	1															1		
(株) グロースフィールド	原 昌久	関東	1												1					
シンボリ牧場(有)	和田 吉弘	関東	1		1															
松風馬事センター	諸岡 慶	関東	1														1			
(有) ビッグレッドファーム銚田TC	岡田美佐子	関東	1														1			
(有) ジョイナスファーム	古谷 博	関東	1														1			
辰美牧場	夏村 道子	関西	1																1	
(有) 三田馬事公苑	岩崎 僖澄	関西	1		1															
EISHIN STABLE	平井 克彦	関西	1		1															
表彰件数 合計		55会員	338勝	38	200		13		2		2				52		18	1 JG III	12	
対象競走 合計			538競走	54	243		14		2		4				116		60	10	35	
該当率			62.8%	70.4%	82.3%		92.9%		100%		50.0%				44.8%		30.0%	10.0%	34.3%	
対象競走				3歳新馬	2歳新馬		2歳重賞・リステッド				2歳交流重賞				3歳以上重賞・リステッド			障害	オープン	

令和元年度 2歳重賞競走の施行競馬場における表彰

※ 11月以降

令和元年度11月2日(土) 東京競馬場

第55回京王杯2歳ステークス (GⅡ)

優勝馬 タイセイビジョン (牡)

表彰会員名【1056】ノーザンファーム

プレゼンター：栗田 晴夫 会長理事



令和元年度11月9日(土) 京都競馬場

第54回デイリー杯2歳ステークス (GⅡ)

優勝馬 レッドベルジュール (牡)

表彰会員名【1056】ノーザンファーム

プレゼンター：中内田 克二 理事

〔競走馬育成協会 関西地域団体(支部)長〕

令和2年度 2歳重賞競走の施行競馬場における表彰

新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、函館・新潟・札幌・小倉各2歳ステークスの表彰式は中止となりました。

日付	場所	回	競走名	G	馬名	性	会員番号	牧場名	備考
7月18日(土)	函館競馬場	第52回	函館2歳ステークス	Ⅲ	リンゴアメ	牝	1073	(有)ビッグレッドファーム	表彰式中止
8月30日(日)	新潟競馬場	第40回	新潟2歳ステークス	Ⅲ	ショックアクション	牡	—	対象外	表彰式中止
9月5日(土)	札幌競馬場	第55回	農林水産省賞典札幌 2歳ステークス	Ⅲ	ソダシ	牝	1056	ノーザンファーム	表彰式中止
9月6日(日)	小倉競馬場	第40回	小倉2歳ステークス	Ⅲ	メイケイエール	牝	1056	ノーザンファーム	表彰式中止
11月7日(土)	東京競馬場	第56回	京王杯2歳ステークス	Ⅱ					11月の京王杯・デイリー杯の表彰式についても実施は未定となっています。
11月14日(土)	阪神競馬場	第55回	デイリー杯 2歳ステークス	Ⅱ					

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業は、公益財団法人全国競馬・畜産振興会の助成を受け、軽種馬経営の強化安定に資する目的により、協会会員を対象に軽種馬の育成調教に係る施設、機械、草地等の経営環境の整備・改善に必要な資金を融通する融資機関に対し利子補給を行う内容のものです。

貸付対象は大きく3種類に分けられます。

①生産育成施設整備資金

厩舎、馬場、放牧柵、その他協会が認める生産育成施設の改良、造成又は取得に必要な資金

②生産育成機械等取得資金

牧草収穫調整用機械、農用地改良造成用機械、馬運車を含む運搬用機械、糞尿処理施設等環境汚染防止施設、その他協会が認める生産育成用機械の改良、造成又は取得に必要な資金

③草地更新等整備資金

草地更新等整備に必要な資金

本事業は平成5年から国の農業近代化資金の制度に準じて実施されており、平成22年までに9件の実績がありました。

近年、政府のマイナス金利施策により、融資機関が育成牧場事業主に対し低利による融資提供に動いており、新たな融資が平成29年に6件、平成30年に1件、令和元年に2件、令和2年は1件となっており、8月以降にも1～2件の予定があります。

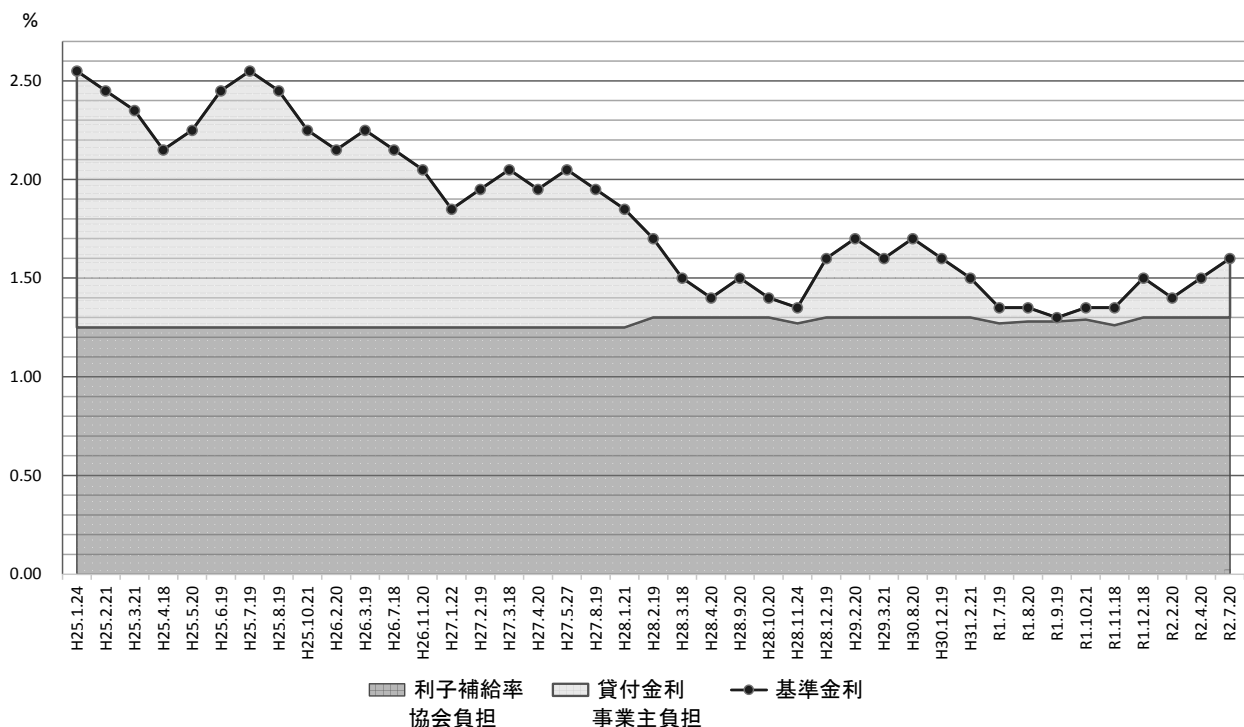
実績のある融資機関としては、北海道銀行早来支店、北洋銀行静内支店、常陽銀行美浦支店、筑波銀行美浦支店、滋賀県信用農業協同組合連合会等があります。

本事業についてご利用希望の会員の方は協会業務部までご連絡ください。

融資状況（令和2年7月現在）

承認年	地区	承認額 (千円)	基準金利	利子補給	貸付金利
平成22年	関西	110,000	2.50%	1.25%	1.25%
	関西	300,000	2.70%	1.25%	1.45%
平成29年	北海道	144,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	300,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	40,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	43,000	1.60%	1.30%	0.30%
	関西	3,500	1.60%	1.30%	0.30%
	北海道	80,000	1.60%	1.30%	0.30%
平成30年	北海道	85,000	1.60%	1.30%	0.30%
令和元年	関東	100,000	1.50%	1.30%	0.20%
	関東	25,900	1.35%	1.28%	0.07%
令和2年	関東	9,890	1.50%	1.30%	0.20%

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業 利率変遷 平成25年～令和2年



競馬関連機材等有効活用事業

競馬関連機材等有効活用事業は、会員の育成調教施設用機材の投資負担を軽減、経営の安定化を図る目的により、JRA 関連施設で使用を取りやめた競馬関連機材等について会員に再利用を斡旋する内容の事業であり、平成15年より実施されています。

令和元年度は2回にわけ、第1回の10月に22機材（このうち2機材は11月の2次募集にて）、第2回の11月に2機材が、抽選の結果、会員に配付されています。応募が多く、希望者が重複する場合には、監事立会いのもと厳正なる抽選を実施し取得者を決定しています。結果等詳細は協会ホームページをご覧ください。

令和2年度も10月頃に情報提供を行うべく準備を進めていますので、各地域団体（支部）からのお知らせ、及び、適宜協会ホームページの確認をお願いいたします。

ご注意ください！ 以下の会員は応募をお控えください！

本事業は有償・無償を問わず、当協会の依頼に対する提供者様のご協力により実施できております。本事業を継続するため、**以下に該当する会員については応募をお控えください。**

- ・記載された機材の状況・不具合等を承諾できない会員。
- ・当選後、速やかに指定された機材提供者に自ら連絡し、引取り等の相談をすることが困難な会員。
- ・平日丸1日以上、電話に応答できないか、折り返しの返答が困難な会員。
- ・自ら機材を引取ることが困難か、自ら引取り業者を選定し、連絡・調整することが困難な会員。
- ・車両においては、速やかに名義変更の手続きをとることが困難な会員。
- ・提供機材の全てを引き取ることが困難である（一部のみの引き取りを希望する）会員。
- ・その他フォーマット掲載事項を承諾できない会員。

ご協力をお願いいたします。

応募される際の注意点等につきましては、協会ホームページ内の本事業実施要領及び事業実施のためのガイドランスと留意事項を事前に必ずご一読願います。無抽選の場合を除き、当該年度に一会員一機材の取得となりますことをご了承ください。前回、同種機材の抽選にもれた場合、一回に限り同種機材への優先倍率が適用されます。機材によっては、残存減価償却費分の有償物件であったり、要修理事物、特殊機械の種別により高額な輸送費負担が想定されることがありますので、抽選後のキャンセル等無きよう、事前に熟考していただいた上でご応募くださいますようお願いいたします。

今後も、JRA、JRAF ならびに JSS 関係者のご協力を得ながら、情報収集に努めてまいります。

競馬関連機材等有効活用事業対象機材の抽選結果

① 令和元年度・第1回〔10月8日（火）27件〕

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
1号	馴致用発馬機 4枠・学校	1台	日本スターティング・システム	平成15年〔2003〕	¥11,000	6	0	1	7	北海道
2号	馴致用発馬機 4枠・栗東	1台	日本スターティング・システム	平成15年〔2003〕	¥11,000	4	0	2	6	関東
3号	馴致用発馬機 3枠・栗東	1台	日本スターティング・システム	平成15年〔2003〕	¥11,000	5	0	2	7	北海道
4号	散水車・イスズ社製・総研	1台	JRA 競走馬総合研究所	平成9年〔1997〕	無償	28	1	8	35	関東
5号	ウニモグ・ベンツ社製・宮崎	1台	JRA 宮崎育成牧場	平成15年〔2003〕	無償	6	2	0	4	関西

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
6号	ウニモグ・ベンツ社製・常磐	1台	JRA 競走馬リハビリ テーションセンター	平成8年 〔1996〕	無償	7	1	0	6	関西
7号	ダンブトラック4WD・2t・ 栗東19-1	1台	JRAF 栗東事業所	平成19年 〔2007〕	¥916,501	10	2	2	10	関東
8号	トラック1t Wキャブ・栗東	1台	JRAF 栗東事業所	平成18年 〔2006〕	¥568,926	3	1	0	2	北海道
9号	トラクター・栗東19-1	1台	JRAF 栗東事業所	平成19年 〔2007〕	¥242,000	27	5	3	25	関東
10号	小型トラクター・栗東18-1	1台	JRAF 栗東事業所	平成18年 〔2006〕	¥22,000	17	5	3	15	関東
11号	小型トラクター・栗東20-1	1台	JRAF 栗東事業所	平成20年 〔2008〕	無償	15	4	2	13	北海道
12号	トラクターミニショベル・学校	1台	JRA 競馬学校	平成6年 〔1994〕	無償	23	5	2	20	北海道
13号	トラクターショベル（ミニ）・ 栗東	1台	JRAF 栗東事業所	平成17年 〔2005〕	¥1,100,000	12	3	2	11	関東
14号	振動ローラー・栗東18-1	1台	JRAF 栗東事業所	平成18年 〔2006〕	¥1,320,000	2	0	1	3	北海道
15号	馬道レーキ・栗東	1台	JRAF 栗東事業所	平成25年 〔2013〕	¥55,000	0	—	—	0	—
16号	バーチカルモア・札幌	1台	JRA 札幌競馬場	平成11年 〔1999〕	無償	1	0	0	1	北海道
17号	3連バーチカルモア・中京	1台	JRA 中京競馬場	平成4年 〔1992〕	無償	0	—	—	0	—
18号	動力噴霧器・総研	1台	JRA 競走馬総合研究所	平成10年 〔1998〕	無償	2	0	0	2	関東
19号	爪ハロー6m・札幌	1台	JRA 札幌競馬場	平成3年 〔1991〕	無償	0	—	—	0	—
20号	爪付箆ハロー2.6m・吊上 式・東京	1台	JRA 東京競馬場	平成7年 〔1995〕	無償	2	0	2	4	関東
21号	爪ハロー2.6m・吊上げ式・ 栗東	1台	JRAF 栗東事業所	平成19年 〔2007〕	無償	1	0	0	1	関西
22号	タインハロー4m・油圧式・ 栗東	1台	JRAF 栗東事業所	平成19年 〔2007〕	無償	1	0	0	1	—
23号	コンビネーションハロー・3 列5m・チップ用・美浦	1台	JRAF 美浦事業所	平成18年 〔2006〕	¥1,976,400	0	—	—	0	—
24号	ライムソワー・栗東18-1	1台	JRAF 栗東事業所	平成18年 〔2006〕	無償	0	—	—	0	—
25号	FRP 馬場柵・鉄製支柱・京都	400m	JRA 京都競馬場	平成24年 〔2012〕	無償	4	0	0	4	関西
26号	FRP 馬場柵・鉄製支柱・小倉	1500m	JRA 小倉競馬場	平成10年 〔1998〕	無償	5	1	0	4	九州
27号	FRP 置柵・小倉	5基	JRA 小倉競馬場	平成10年 〔1998〕	無償	2	0	0	2	—

- ※ 優先倍率の適用について：前回、同種機材の抽選に外れた取得希望会員へは、今回の抽選時1回に限り2個の玉を投入した。
- ※ 5号：当選後、引渡までの間に車両が故障し、その箇所の特定や修理が困難なため、提供が不可能となった。このため、競馬関連機材等有効活用事業実施要領（第11条）に基づき、今後、同種（ウニモグ）物件の機材募集の際、希望する任意の1回に限り、当該会員は最優先で取得することができる（令和2年4月8日決定）。
- ※ 14号：希望の2者が別物件を選択し、当選し、上位順位者が辞退したため、下位順位者の複数当選とした。
- ※ 18号：希望の2者が別物件を選択し、当選のため、上位順位者の複数当選とした。
- ※ 15.17.19.22.23.24.27号：応募者なしまたは辞退により二次募集へ（10月17日開示）その後15号は故障のため取り下げ

② 令和元年度・第1回二次募集〔11月5日（火）6件〕

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
17号	3連バーチカルモア・中京	1台	JRA 中京競馬場	平成4年 〔1992〕	無償	1	—	—	1	北海道
19号	爪ハロー6m・札幌	1台	JRAF 札幌競馬場	平成3年 〔1991〕	無償	0	—	—	0	—
22号	タインハロー4m・油圧式・ 栗東	1台	JRAF 栗東事業所	平成19年 〔2007〕	無償	0	—	—	0	—

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
23号	コンビネーションハロー・ 3列5m・チップ用・美浦	1台	JRAF 美浦事業所	平成18年 〔2006〕	¥2,013,000	0	—	—	0	—
24号	ライムソー・栗東18-1	1台	JRAF 栗東事業所	平成18年 〔2006〕	無償	0	—	—	0	—
27号	FRP 置柵・小倉	5基	JRA 小倉競馬場	平成10年 〔1998〕	無償	1	—	—	1	関東

※ 2機材に対し、各1会員のみの応募となったため、無抽選での当選となった。

③ 令和元年度・第2回〔11月5日(火)5件〕

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
28号	散水車・モリタエコノス製・ 栗東	1台	JRAF 栗東事業所	平成20年 〔2008〕	¥1,113,390	1	—	—	1	北海道
29号	レベルハロー-3.3m・福島	1台	JRA 福島競馬場	昭和62年 〔1987〕	無償	1	—	—	1	関東
30号	爪ハロー-6.5m・福島	1台	JRA 福島競馬場	平成3年 〔1991〕	無償	0	—	—	0	—
31号	爪ハロー-6m・京都	1台	JRA 京都競馬場	平成14年 〔2002〕	無償	0	—	—	0	—
32号	爪ハロー-5m・京都	1台	JRA 京都競馬場	平成11年 〔1999〕	無償	0	—	—	0	—

※ 2機材に対し、各1会員のみの応募となったため、無抽選での当選となった。

事業5

軽種馬経営高度化指導研修（人材養成）

当協会では、平成22年度から地方競馬全国協会が実施している「競走馬生産振興事業」のうち、経営基盤強化対策事業の軽種馬経営高度化研修事業（人材養成支援）により助成を受け、生産・育成技術者の海外派遣研修をはじめ以下の3事業を引き続き実施しています。

1. 生産育成技術者海外派遣事業

この事業は、海外研修に係る諸経費（交通費、研修費、宿泊費等）の1/2を上限に補助金を交付するものです。この研修制度の詳細については、協会ホームページをご覧ください。

令和元年度は、(公財)軽種馬育成調教センター及び関西支部から推薦のあった同センター第36期卒業生5名を5月9日から8月5日までの約3ヶ月間の日程でアイルランドへ、5月14日から8月28日の日程でイギリスへ1名、7月25日から9月23日の日程でアイルランドへ1名、9月23日から11月30日の日程でオーストラリアへ1名派遣しています。

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対応のため、やむを得ず募集を見合わせました。

2. 修学奨励金交付事業

国内軽種馬関係機関が国内の軽種馬生産・育成の仕事に就くための者を養成する目的で設置した研修施設で教育を受けようとする者の内、勉学意欲がありながら経済的理由により修学が困難な者に対して修学奨励金を交付する事業で、現在は、(公社)日本軽種馬協会、(公財)軽種馬育成調教センター及び協会が特に指定する研修所で研修を受講する者を審査対象としています。令和2年度における承認件数は、合計7件でした。

3. 生産育成牧場就業者参入

軽種馬の生産育成調教分野で働く人材を確保するため、多くの若者に生産育成調教の現場を紹介することにより就業者の参入を促進する事業です。

BOKUJOB メインフェアを中心に日帰り見学会や夏休みを利用した滞在型体験会などの開催、Webサイトによる生産育成調教場の周知、仕事内容等の情報発信などを主な活動としておりますが、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ほとんどの施策の実施を見合わせております。関係各位におかれましては、どうかご理解、ご高配を賜りますようお願いいたします。

◎「牧場で働こう見学会」

令和元年度は、3月9日に関東地区において「ビッグレッドファーム銚田トレーニングセンター」「KSTレーシングセンター」、「松風馬事センター」で、3月16日に関西地区において「グリーンウッドトレーニング」、「信楽牧場」、「ノーザンファームしがらき」で、日帰りでのバス見学を実施しました。なお、令和2年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむを得ず実施を見合わせました。

◎「BOKUJOB メインフェア・関西フェア」

令和元年度はメインフェアを6月1日・2日にJRA 東京競馬場スタンド1階イーストホールで、関西フェアを6月22日・23日にJRA 阪神競馬場アメニティホール1階で実施しました。

令和2年度は、メインフェアを6月6日・7日にJRA 東京競馬場スタンド1階イーストホールで、関西フェアを6月27日・28日にJRA 阪神競馬場アメニティホール1階で実施するべく準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむを得ず開催を取りやめることいたしました。

◎「Web 相談会」

メインフェア・関西フェアのようなイベントを継続的に実施することにより就活適齢期の対象者はもとより、それ以前の年齢層に対しても訴求効果が現れていると事務局では考え、新型コロナウイルス感染症拡大防止を最大に勘案し、密を避けた Web 上での「就業相談会」ができないものか多角的に検討を進めてきました。

その結果、Zoom アプリを用いての対面式による「Web 相談会」を企画、最初に6月27日(土)・28日(日)の両日「Web 相談会 (BTC・JBBA 研修コース)」を実施、その知見を基礎にして、9月12日(土)・13日(日)の両日、「Web 相談会 (牧場就業コース)」を実施することとなりました。

◎「夏休み牧場で働こう体験会」

令和元年度は、7月28日～8月2日の間5泊6日で、岡田牧場様、杵臼牧場様、グランド牧場様、様似町軽種馬共同育成センター様、谷口牧場様ならびに宮内牧場様のご協力をいただき実施いたしました。令和2年度におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむを得ず実施を見合わせました。

◎「夏休み研修コース体験入学会」

令和元年度は、8月26日～8月29日の間3泊4日で、公益財団法人軽種馬育成調教センター及び公益社団法人日本軽種馬協会が実施する体験入学会への補助事業を実施いたしました。

令和2年度につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、日程を2泊3日に短縮し1回の参加者を10名に限定し、7月30日(木)～8月1日(土)及び8月26日(水)～28日(金)の

2コースに分けて実施し、各コースの参加者からは概ね好評を得ました。

◎「広報&相談コーナー・PR ブース」

令和元年度は、以下のとおり展開いたしました。

<広報&相談コーナー>

7月6日・7日 JRA 中京競馬場

7月23日・24日 インターハイ馬術競技大会会場
(御殿場市)

8月10日・11日 JRA 札幌競馬場

8月25日 JRA 宮崎育成牧場 馬に親しむ日

8月31日・9月1日 JRA 小倉競馬場

<PR ブース>

4月23日 JRA ブリーズアップセール (JRA 中山競馬場)

5月20日・21日 北海道トレーニングセール (JRA 札幌競馬場)

6月20日 大阪動植物海洋専門学校主催 合同企業セミナー会場 (大阪市)

10月24日 日本学校農業クラブ全国大会 (山形市総合スポーツセンター)

令和2年度におきましては、1月16日～21日に横浜で行なわれたホースメッセにPRブースを展開した以降、昨年同様に積極的に展開していく予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむを得ず実施を見合わせております。

◎生産・育成牧場就職応援サイト「BOKUJOB.com」の運営

令和2年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場型のイベントの実施を取り止めとせざるを得ない状況になっていることから、WebでのPR展開に傾注させていただいております。本サイトにつきましても、牧場に就業を希望する方が従来以上に利用しやすいように創意工夫を施し、「Webフェア(牧場に就職相談・質問してみよう!)」として随時開催中です。

なお、求人牧場掲載は従来どおり無料とさせていただいておりますので、会員の皆様の今まで以上のご利用をお待ちしております。

◎BOKUJOB 求人牧場紹介 BOOK の作成

令和2年度についても、掲載希望牧場を募集して作成しました。

◎「BOKUJOB ブログ」について

ブログに投稿していただける牧場を募集しています。前掲の「BOKUJOB サイト」の求人情報に拘らず、牧場の日々をご披露いただくなど、牧場就労に興味を持っていただけるように紹介しています。

インターネットにて「BOKUJOB」、若しくは「BOKUJOB ブログ」で検索してください。

賛助会員のご紹介

令和2年度、公益社団法人競走馬育成協会の賛助会員となっていただきました各社をご紹介します。

有限会社 アスコットコーポレーション

代表取締役 加藤誠
Tel.029-885-8199 Fax.029-885-6177
〒300-0427 茨城県稲敷郡美浦村布佐1870-8

馬体の健康は大腸を強くするサラLGから！
皆様に信頼され20年の実績があるサラLGを販売しています。ご要望があればすぐに伺います！

サラLGは馬が好む甘いオリゴ糖により飼料に混ぜるだけで食欲が増します。腸が元気でないと活力ができません。諦めずにサラLGを与え続ける事によって馬自身で栄養を生成していきます。レースの疲れを軽減するだけでなく、よく眠れる事でスイッチのオンオフが入りやすくなると言われています！



株式会社 テイクオー

代表取締役 萩原早苗
Tel.047-325-2000 Fax.047-325-2002
〒272-0033 千葉県市川市市川南2-4-12市川ガーデンア512

株式会社 市原商店

代表取締役 今泉治武
Tel.077-558-0834 Fax.077-558-0885
〒520-3004 滋賀県栗東市上砥山2096

ベルテック 株式会社

代表取締役 竹下晋二
Tel.06-6991-9875 Fax.06-6991-9876
〒570-0044 大阪府守口市南寺方南通3-11-10

株式会社 三和メック

代表取締役 天野公夫
Tel.028-645-2741 Fax.028-645-2413
〒321-0105 栃木県宇都宮市横田新町18-6

北海飼料販売 株式会社

代表取締役 勢戸俊雄
Tel.077-558-2468 Fax.077-558-2001
〒520-3004 滋賀県栗東市上砥山906-1

株式会社 タイワ

代表取締役 長谷川和宏
Tel.0575-24-7111 Fax.0575-24-7110
〒501-3822 岐阜県関市市平賀811
E-mail houseshoe@taiwa-co.com

株式会社 渡辺商店

代表取締役 渡邊義昌
Tel.03-3463-7661 Fax.03-3463-2715
〒153-0042 東京都目黒区青葉台3-6-12

◆ 地方競馬の馬主になりたい

地方競馬全国協会からのご案内

「地方競馬の馬主になりたい!」という方は、地方競馬全国協会までご連絡ください。
地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。
インターネット「地方競馬 馬主」で検索。

地方競馬 馬主

検索

または、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイト

http://www.keiba.go.jp/association/owner_faq.htmlでもご覧いただけます。

〔問合せ先〕 担当：地方競馬全国協会 審査部 登録課 電話 03-3583-2142 (平日 9時30分～17時30分)

◆ 競走馬育成協会人事異動

【退任】

総務部長 近藤 高路
総務部 松下 洋子

【就任】

総務部長 小沼 秀樹
総務部 本山由美子

◆ ホームページのご案内

ホームページに毎週育成技術表彰対象会員情報を掲載しています。他、各種事業内容等掲載されていますのでご活用ください。



いくせい

2020 58号

発行日 令和2年10月1日
発行 公益社団法人 競走馬育成協会
〒105-0004 東京都港区新橋4-5-4
日本中央競馬会新橋分館4階
TEL. 03(6809)1821 FAX. 03(6809)1822
E-mail: kgj00522@nifty.ne.jp
URL: <http://www.ttda.or.jp>

編集責任者 佐藤光信
制作・印刷 西谷印刷株式会社

